



www.jalc.or.jp
第462号
2012年9月10日

造園協

発行／一般社団法人日本造園建設業協会（Japan Landscape Contractors Association） 創刊／昭和49年6月1日 〒113-0033 東京都文京区本郷2-17-17 井門本郷ビル2階 TEL03 (5684) 0011 FAX03 (5684) 0012

本号の主な内容

- 2、3面 海外特集－2：フロリアード2012とヨーロッパの造園事情視察報告
3面 【学会の目・眼・芽】第38回 温井 亨氏
造園関係者の手で仮設住宅にサイトプランを
4面 【緑滴】衰退期の8つの「打つ手」 古賀 正

「地域リーダーズ」勉強会

仙台市で開催 約20名が参加

「地域リーダーズ」勉強会を8月21日、22日、宮城県仙台市で開催、各総支部からの参加者をはじめ、地元宮城県の会員ら約20名が参加した。

地域リーダーズは、総支部から推薦された造園建設業界の次代を担う若手・中堅経営者、後継者、経営幹部候補者等で構成し、平成22年にスタート。事業委員会人材育成部会（風間部会長）が活動支援を行い、ネットワークを広げながら、勉強会で学んだことを所属する総支部内に展開し、造園建

設業界の活性化を進めている。これまでに東京、大阪、北海道で実施してきた。初日は、会合の後、佐々木亮・仙台市建設局百年の杜推進部公園課長が「仙台市の街路樹について」「東日本大震災と仙台市の公園緑地」について講演した。

仙台市では、平成15年から3年間、今後の管理方針を決めるため、403路線の街路樹調査を実施。今後、大きくなり過ぎた樹木のコンバクト化、若木や周辺環境に適した樹種への更新など、歩道幅員に見合った管理を進め、住民の要望を踏まえながらも統一美を発揮することが並木として重要



被災地現地視察のようす



佐々木・仙台市公園課長の講演

と、意見の調整、樹高と下枝高の統一を図った維持管理を行っていくとした。東日本大震災において仙台市では、海岸防災林387.2haのほぼすべてが被災。都市公園は25.4%にあたる413公園が被災し、被害総額は約54億円。街路樹は高木約500本、低木約4万本が倒木、浸水により枯損、被害額は4億円に上っている。

仙台市震災復興計画は、計画期間を平成23年度から27年度とし、「美しい海辺を復元する」海辺の交流再生プロジェクトでは、海岸防災林を整備し、貴重な自然環境である干潟の再生、市民が自然と触れ合える交流ゾーンなど、東部海岸の再生を進める。

また、平成24年度末までの海岸公園復興基本構想策定をはじめ、都市公園の防災対策強化、防災集団移転先の公園整備（居久根の再生）、ブロック塀から生垣等への転換、緑化による被災者支援などが進められる。講演会後の交流会は、地元の若手造園技術者とネットワークを広げることを目的に、情報や意見交換を行った。

二日目の見学会は、女川、鹿島御児神社、東松島塩釜荒浜海岸公園、名取川周辺、仙台北空港をバスで移動しながら「被災地の現状と今後の復興計画について」古積昇・古積造園土木（株）代表取締役、野村徹郎日造協技術・調査部長が、各所での被災状況や災害時の公園利用、みどりの支援実態などの説明を行った。

技術情報共有発表会

10月12日 東京大学で開催

「第6回技術情報共有発表会」を10月12日（金）13時30分から東京大学弥生講堂（一条ホール）（東京都文京区）で開催する。発表会は、会員から「植栽基盤診断士を活用した海岸保全林の再生」など6つの発表を行い、（公社）日本造園学会

から鈴木雅和・「ランドスケープ研究」作品選集委員長が発表。同学会・小野良平常務理事が講師。

会員参加費無料。当日は17時半から19時まで、関東・甲信総支部主催の交流会も実施。詳細はホームページへ。

人事異動

国土交通省都市局関係

（9月11日付）

▼出向（内閣官房内閣審議官（内閣官房副長官補付）（命）内閣官房地域活性化統合事務局長）

▼大臣官房審議官（都市生活環境担当）

▼大臣官房審議官（都市生活環境担当）

樹林

2050年には世界人口の7割が、地表面積の2%を占める都市部に住むといわれています。そうなったとき、我々は都市において快適な生活を送ることができでしょうか。人口増加と都市化は、日本の多くの市町村の議会、都市計画立案者、住宅開発業者、建築家等に多大な影響を与える問題です。1600万人の人口が九州とほぼ同じ面積に密集するオランダにおいて、人々は同じ問題に直面しています。

都市部の緑地は、この問題を解決に導くひとつの方策となるでしょう。都市における緑のインフラは、健全な都市空間を実現し、人々の健康・幸福・生産性に資する労働環境を創造し、強い絆で結ばれた地域社会の発展に寄与します。緑は生命維持に必要な不可欠な生態系サービスを提供し、労働者が仕事の後にリラックスする場を与えます。緑は地球を生き可能な場所とし、人類が汚染し続ける環境を浄化し、気候変動の悪影響を軽減します。つまり、環境と経済発展や人間の幸せは密接に関係しているのです。

グリーンシティ グリーンシティは、2002年にオランダで産声をあげた取り組みです。その目的は、生活環境における緑の重要性や利点について社会の認識を高め、政府や企業による緑のインフラへの投資を促すことです。グリーンシティの理念は、植物が社会的、経済的、環境的利益をもたらすという考え方に基づいています。「グリーンシティ・キャンペーン」はオランダ企業にとっての自然の費用と便益を取

一般的には生態系と生物多様性の経済学（略してTEEB）と呼ばれています。最初に組み組んだ二つの研究はすでに終了しています。一つ目は「Green, healthy and productive」と題する調査で、健康との関連性における自然の費用と便益を研究対象としています。二つ目は「TEEB for Dutch businesses」と題する調査で、オランダ企業にとっての自然の費用と便益を取

供しうる最高の産品、すなわち花・植物・樹木・果物・野菜などが集められます。これら産品は孤立して存在するのではなく、互いに関連しあい、自然や生活環境とも作用しあっています。経済社会の発展にともない、人類と自然環境とのリンクは弱まっているからこそ、多くの人々が、緑が人々の生活や幸福のために必要不可欠なものであることを理解し始めています。こうした

グリーンシティの概念が都会のライフスタイルにおいてますます重要になっていることを確認しました。気候変動といった負の影響を相殺し、現代社会や次世代に生活の質（クオリティ・オブ・ライフ）を提供し続ける緑のインフラが、環境に肯定的影響を与えていることに疑いの余地はありません。

グリーンシティ（緑の都市）

オランダ王国大使館 農業・自然・食品安全担当参事官 シンディ・ハイドラ



りあげています。2007年には、TEEB Bに関する国際研究の最初の報告書が発行され、生態系の経済的価値は国際的な政治課題となりました。

グリーンシティの概念が一層の発展を願うとともに、日蘭双方の対話が継続することへの大きな期待を表明しました。

ナショナル・グリーンシティ 市町村がより一層緑のインフラへの投資を行うように、経済・農業・イノベーション省、オランダ市町村連合、ほか2団体は、9月26日にナショナル・グリーンシティ2012を共催します。このイベントでは、年に一度のコンペが開催され、もっともグリーンな市町村が表彰されます。

著者（Ms Cindy Heijda）プロフィール 1997年から2001年在ハーグ日本大使館で経済アシスタントとして勤務。2001年オランダ農業・自然・食糧安全省（現オランダ経済・農業・イノベーション省）入省。2004年から2012年まで同省の大臣スポークスマンとして勤務。主に国際情勢・農業・漁業・欧州共通農業政策分野を担当する。2012年8月1日、在オランダ大使館農務参事官として着任、現在に至る。

「全国造園フェスティバル2012」を10月6日（土）から8日（月・祝日）の3日間を中心に実施する。フェスティバルは、「花と緑で美しい日本を」をテーマに、造園技術の認知向上、造園事業領域の拡大、会員企業

の提案力向上、地域との連携強化などを目的に開催、今回で7回目。各支部や各企業が、地域の公園などを会場にさまざまな催事を実施する。内容等決定次第、順次ホームページに掲載、周知を図っていく。

造園フェスティバル2012

10月6日から3日間を中心に実施

「全国造園フェスティバル2012」を10月6日（土）から8日（月・祝日）の3日間を中心に実施する。フェスティバルは、「花と緑で美しい日本を」をテーマに、造園技術の認知向上、造園事業領域の拡大、会員企業

ロッパ造園建設業協会) 海外の造園組織との交流

Horticultural Expo, Venlo - The Netherlands

美術館は、箱根彫刻の森美術館のモデルにもなったというもので、まさに自然の森に溶け込んだ美術館である。

美術館にはゴッホの作品のほか、スラー、モネ、ピカソなどのオリジナルが展示され、間近に近づいて鑑賞することができ、柵やガラス越しに見るアート鑑賞では感じられない筆のタッチまで見ることができる。

屋外の庭園美術館は25haの広さがあり、ロダンはじめいろいろな作家のアートが展示されていて、鑑賞するだけでなく体験型のアートもあり、大人から子供まで夏の午後を楽しんでいた。

◇フロリアード2012

フロリアードが開催されているVenlo市は、オランダ南部のドイツ国境に接していて、ドイツ側の大都市であるデュッセルドルフから70kmほどの場所に位置する。ドイツの依頼を受け1910年代からVenloでは温室栽培が発展した地域であり、バラ、ガーベラ、菊で有名な花と野菜の巨大集散地となっている。

今回のフロリアード2012の会場視察に先立ち、会場メインゲートであるイノバトーレンの会議室でAIPH会長のDr.FaberによるFloriadeの目的、歴史、2012のコンセプトなどの説明を受ける。

会場の跡地は従来のフロリアードでは公園としての利用だったが今回はビジネスパークとして活用される計画であり、フロリアードを通じてVenloという都市を知ってもらうことで多くの企業誘致につながることを期待していたが、8年前の計画時と現在の経済環境が大きく異なっているためオフィスの需要がなくなっているのが課題ともなっている。

園芸博覧会を東北の復興に役立てるアイデアはあるかとの質問に対しては、いろいろな提案ができると思うので交流を深めたいとの答えをいただいた。

日本国政府出展に研修生として参加しているスタッフも交えた昼食のあと、午後からの会場視察は残念ながら天気が悪くなり、突然のどしゃ降りと晴れ間が交互にやってくる中、雨の合間を縫って屋外の川口市出展日本庭園やヴィラフロラ2階の日本政府出展ブースなどを視察した。



フロリアードの目的や効果について解説するDr.Faber

◇エムシャープパークプロジェクト

エムシャープパークプロジェクトは、ドイツ以前のプロシア時代から石炭などの地下資源開発を基盤として発展したルール工業地帯の環境破壊が進んだ状況を再開発し、新しい時代の生活環境への転換を図るための計画として始められた。

かつては廃棄物を垂れ流した汚い川の代名詞となっていたエムシャープ川に、水とみどりのネットワークを取り戻すために、対象となる800平方キロの地域にある17の自治体の合意形成を10年かけて行いながら再構築を目指した。

このプロジェクトは、IBA（国際建築展覧会）方式と呼ばれる建築・都市計画分野でその時代の先端的なテーマを取り上げ、恒久的に展示する手法で、ドイツでは20世紀初頭から行われてきた。

エムシャープパークではノルトライン・ヴェストファーレン州政府の出資でIBAエムシャープパーク社という有限会社を'89～'99年の10年間期限付きで設立し、ここの事業は自治体や民間企業の発案により、IBA認定プロジェクトとして州政府の助成金や支援の優先権を得て実施された。

事業は、①生活を豊かにするウォーターフロント整備、②歴史の証人である旧産業施設の保存と再利用、③公園の中のインダストリーパーク、④新時代にふさわしい住環境整備、⑤社会活動や文化活動の活性化、という5つのテーマで実施された。

今回訪問したオーバーハウゼンにあるエムシャープパーク管理施設のGaida所長によれば、この地域では全体が、①ライン・ヘルネ運河とエムシャープ川の間空間整備、②自然再生整備、③全長2kmで氷河期から現在までの植生を展示する植生パーク、④ランドマークアート、⑤都市施設という5つのコンセプトでプログラムされていて、巨大な古いガスタンクを産業史博物館にしたり、浄水場の排気管を公園内のアートにしたり、工場跡地をスケートリンクにするなど、工業施設の再利用が進められ、汚れた街のイメージを変えるための象徴となっている。

プロジェクトの年間管理費は州政府から80%程度が支出



エムシャーププロジェクト

され、通常のランニングコストは各自治体が負担している。発注システムは発注金額により地域から全ヨーロッパを対象とした入札で行われるとのことである。管理事務所は3年契約の指定管理者のような発注形態で、ランドスケープ再生の事例としても大いに参考になる方式である。

◇GaLaBau (Verbond Garten-Landschafts-und Sportplatzbau Nordrhein-westfalen=庭+造園+運動施設(NRW)北ライン西フォレン州の造園建設業協会) ドイツ全体には16の州があり、造園建設業協会は団体としては12協会がある。今回は、エムシャーププロジェクト地域に近いNRW(北ライン西フォレン)州の造園建設業協会を訪問した。

2000年まではケルンのライン川協会とハムのウェストフォレン協会の二つの協会があり過去のいろいろな経緯から合併が困難だったが、どちらの地域にも属していない中間地点に事務所を設置したとのことである。事務所はエムシャーププロジェクトにより不要となった元浄水場敷地に20年の賃貸契約で設置されており、スタッフそれぞれが個室を持ち、事務局長の部屋には秘書の部屋が隣接しているうらやましいようなつくりだ。事務所ビルには造園用コンピュータソフトの会社も入居して、会員向けには特別価格での販売もしているという。

敷地となっている浄水場は公園として公開されており、巨大な汚水タンクはアートの展示として改修され、中には排水パイプで作られた樹木の根のようなモニュメントと深い底にはマグマのような赤い照明が光る。

事務局長を務めるMichael Gotschika氏の説明によると、協会の主な目的は、共同購入、認知向上活動、ロビー活動であり、州内の会員数は約900社で売上高は1.7億ユーロ(約1700億円)とのこと。その内訳は、個人邸54%：民間建築関係29%：公共事業17%であり、売り上げのうち70%が新設で30%がメンテナンスで占められる。メンテナンスは個人邸が多くなっているそうだ。

協会には加盟している造園企業の18000名が関係し、そのうち3000名が見習いとして働いているという。

造園建設業に関する技術者は、技能系の資格者としてドイツの造園資格制度であるマイスター、マイスター+プランニングの知識を持つテクニシャン、プランニングやデザイン専門家としてのエンジニアに分類されるが、造園工事業には必要とされる職業資格がないそうだ。

会員の構成は、個人事業主から設備会社の造園部門までであるが、職員数150人の企業が州内では最大であり、全国12地区では3300社が加盟している。全国組織が別にありELCA(欧州造園建設業協会)のメンバーとなっている。

協会のマークは信頼の証として会員の車両やパンフレットなどいたるところに表示され、顧客に対するプライドともなっている。

今後も日本との交流を続け、機会があれば相互に技術交流や研修制度を考えていきたいとお話いただいた。



ロゴマークをつけた車両、浄水場跡を活用したオフィス

◇恵光院の日本庭園

恵光院は、恵光日本文化センターとして1988年に建立され、仏教から生まれた日本の伝統文化の実践や紹介を行っている。政治経済の中心であるデュッセルドルフ市内でも日本人が多く住む地域にあり、本堂、阿弥陀堂、東京から移築され茶室としても使用されている日本家屋と日本庭園で構成されている。

日本庭園は浄土式庭園として作庭されており、枯山水の池、流れと石組みがされている。また、僧坊には茶庭も設えられており、ヨーロッパであることを忘れてしまうような趣となっている。

茶庭の池を見せていただいた際に、循環ポンプが不調でどうしようという相談を受けたが、どうやらフィルターが詰まっていると思われ、このままではポンプに負荷がかかるので一時止めて修繕をしたほうが良いとアドバイスを行った。

◇庭園博物館

ヨーロッパの庭園の歴史を展示した博物館で、屋内展示では映像やミニチュアによって、エジプトからイギリス式風景庭園までの歴史を学ぶことができるが、スペインのアルハンブラなどイスラム庭園の解説はない。屋外には6haバロック庭園とイギリス庭園があり、公園のような雰囲気庭園様式を体感することができる。

■ELCAと日造協

ELCA(European Landscape Contractors Association)は1963年に設立されヨーロッパ21カ国が加盟するヨーロッパ造園建設業協会である。

本部はドイツ統一前の首都で現在は環境省、食料農林

省や食料森林庁、農業市場制度庁などの省庁が設置されているボンの近くライン川沿いにあり、情報交換や技術交流の促進、全ヨーロッパの会員に向けた事業促進、若年技術者の相互交流と職業訓練のサポート、ヨーロッパ各国加盟組織間での協力推進を主な活動目標としている。

ELCA本部事務局からは、日造協へも技術研修会やイベントなどの様々な情報がメールで送られており、今まではメールだけでのやり取りをしていたが、フロリアードのイベントを通じてオランダ、ドイツのELCAメンバーと直接お会いする機会を得られた。

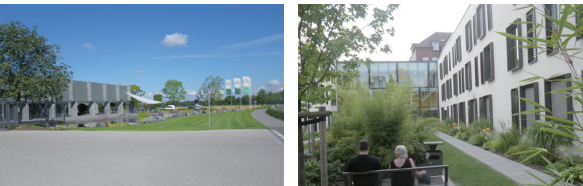
特に、ドイツのGALABAU(Garten, Landschaft und Sportplatzbau=庭園造園スポーツ団体)では、ライン川地区の会員であるKuster s Landscapeを訪問することができた。

小さなミゼットでトレーラーを引きながら庭の管理からはじめ一代で築いたという企業で、現在では造園ゼネコンとして公共事業や民間ゼネコンの仕事もしている。

デュッセルドルフから30分ほどの郊外にある本社は、庭園風景に囲まれたモダンなデザインの社屋を持ちガーデンセンターが併設されており、洗練されたアプローチやディスプレイで周辺のガーデンセンターとは格段の差が感じられる。

工事はヨーロッパ各国からのメンバーで構成され、資機材やスケジュールボードがきちんと整理されている。また、スタッフの顔写真を張ったボードがあり、トレーニングにきた若者たちも一員として掲示されていて、感心したのは経営者の写真が一番下に張ってあることで、人を大切にしている会社と感じた。

現在施工中の修道院が経営する病院の現場を見せてもらったが、建築以外の屋外施設は全て受注しているということであり、積極的な営業活動とアートスタッフで庭園セラピーのための施設なども含めたデザイン提案を行っている。



Kustersの社屋

庭園セラピー施設

■フロリアード2012 ジャパンデーイベント

フロリアードには、日本国政府屋内展示と埼玉県川口市の日本庭園が出展され、世界に誇る日本の園芸、造園文化を紹介している。

オープニングセレモニー後には、日蘭の園芸造園関係者を集めた意見交換会「ラウンドテーブル」が開催され、日造協からは、松本国際副委員長と野村技術調査部長が出席し、花き輸出入を中心とした世界戦略と花と緑のまちづくり(グリーンエコなまちづくり)について日蘭双方から意見発表を行った。

日本国政府出展は、屋内展示会場Villa Flora 2階の約250㎡の出展ブースで、日本の花きや園芸文化を紹介しており、前回の特集で紹介したオープニングセレモニー(4月)が行われた。8月のジャパンデーでは、日本庭園の歴史に加えて盆栽のデモンストレーションを行った。



意見交換会、盆栽を恐る恐る剪定する来場者

■造園技術の海外展開へ向け

今回はClingendaal日本庭園、デュッセルドルフ市内の恵光院、ノードパルクの日本庭園を見たが、定期的に剪定管理がされているというものの、日常管理には日本人造園技術者の手は入っていない。

国際交流によって世界の造園技術者、技能者と情報交換、技術交流をすることで、日常管理や定期的に行う管理などが可能になるかもしれない。

また、公開されているものだけで世界に400箇所以上あるといわれる日本庭園を良好な状態に保っておくためにも必要なことであろう。

今後も多くの国で開催が予定されている国際園芸博覧会が、日本の誇る庭園文化を世界中の人々に紹介し、日本庭園の魅力と日本の造園技術のすばらしさを伝える場となることを願うとともに、伝統的な日本庭園だけでなく、日本の持つ造園技術を大いに発揮してその土地にあったすばらしい造園空間を創出するという新たな国際的ビジネスとなることを期待したい。

海外特集-2

フロリアード2012と
ヨーロッパの
造園事情視察報告

AIPH(国際園芸家協会)、ELCA(ヨー

Floriade 2012 World

■フロリアード2012視察ツアー概要報告

日造協 国際委員会では、フロリアード2012の開催に合わせ、7月5日(木)～7月11日(水)の5泊7日間で視察ツアー(造園CPD認定プログラム)を企画し15名の参加者により実施した。

6月号でもご紹介したとおり、フロリアードはオランダで10年に一度開催されるA1クラスの国際大博覧会で、開催地の経済振興とともに都市緑化推進や環境保全などの効果も併せ持ち、2012開催では日本国政府出展の屋内展示、川口市出展の日本庭園でのイベントに日造協が協力している。

今回のツアーではフロリアード会場で世界各国の最新技術、デザインに触れるとともに、過去に開催されたフロリアードの跡地も視察することで、国際園芸博覧会のもたらす造園関連産業への波及効果を検証し、さらに、これまで日造協が交流を続けてきたコネクションを活かして、チューリップで有名なキューケンホフ元園長のコスター氏やハーグのクリンゲンダール日本庭園を管理しているフェイエン氏のご協力を得て、閉園中にもかかわらず園内を案内していただくことができたことで、日本の造園建設業の事業拡大、ビジネスチャンスにつながるヒントも発見できたのではないかと考えている。

主な視察先の状況は次のとおりであった。

◇Aarsmeer(アルスメール) フラワーオークション

朝7時にホテルを出発し、世界最大級の生花市場であるAarsmeerフラワーオークション見学へと向かう。

800m×600mという広大な建物の中では、月曜から金曜まで朝6時から、およそ150社が参加する競りが行われ、1日に1200万本の切花と120万本の鉢物が扱われ、年商は約40億ユーロとのことである。広大な荷捌き場からカートで整然と運び込まれた花が次々に競り場ステージに到着し、2階の競り人たちが正面の大きなスクリーンに映し出される商品情報と価格情報を見ながらパソコンを使って次々に競り落としていく。競り落とされた商品はすぐに1階で出荷作業に入り、自動エレベーターやコンベアで隣接するトラック駐車場へ運ばれ、市場へと向かう。

オークション会場の隣にはテストルームが設置され、入荷した花の品質管理を行っている。大量に搬入される花も、この品質管理に合格したものしか競りにかけられることは



フラワーオークション

ないため出荷される商品の信頼性が高まっている。

最近は、オークション会場以外にもインターネットでの競り参加や、農家からの直接購入などが増えているため、競り場は縮小しているそうだが、やはり世界最高クラスの花市場と言えるであろう。

◇Haarlemmameer(ハーレムマミーア)

10年前に開催されたフロリアード2002の会場跡地で、現在は公園となっているHaarlemmameerへ向かう。

日本政府出展庭園は基本的な構成は残っているものの、竹垣ゲートは盛土のみのツツジが植栽されている状態で、石積みは当時のまま残されている。植物は10年の間にかかなり大きく育っているため、うっそうとした感じがしている。東屋はフレームを残すのみで落書きがたくさんされていた。公共の公園にあるため仕方ないことではあるが、せっかく残すのであれば適切な造園技術による管理が必要であると感じた。



フロリアード2002日本庭園の現状

◇Keukenhof(キューケンホフ)

元園長でありデザインも行ったMr. H. Kosterと合流し、現在の副理事長であるMr. Jan S PenningsとデザイナーのMr. Jasper van der Zonを交えて、現在の状況説明を受けた。一般の人は入ることのできないメンテナンス中の園内を1時間ほどかけて視察。花壇の下ごしらえや来年に向けた球根の掘り出しなどの作業を常時30名ほどのスタッフが行っているとのことである。オープン時には数百人のスタッフにより様々なサービスが提供されることになる。

キューケンホフには2002年に姉妹公園の記念で設置された鳥取花回廊コーナーがあり、デザインコンセプトとメンテナンスの方針についてコメントし、新設された朱塗りの鳥居の撤去や橋の塗装の剝離、植物の間引きなどを提案し、後日ゲートのイメージ写真を送ることにした。

Keukenhofの視察後、Koster氏がデザインしたLisse市



Koster氏のプレゼンテーションと通常は見ることのできない閉園時のキューケンホフ

学会の目・眼・芽

第38回

東日本大震災の仮設住宅を見るたびに思うことがある。夏の暑さはいかばかりだろう、エアコンなしではやっていけまい……

仮設住宅は窓が小さい。掃き出しの開口部は見ることがない。したがって風通しで涼をとることはできない。そこで全戸にエアコンがついている。内部に閉じて、全面的にエアコンに頼る設計になっている。

さて、これはどうしたものだろうか。原発が停止し、火力発電所も被災し、節電が求められているときに、なぜエアコンなしでは住めない住宅なのか？

他に選択肢がなければ仕方がない。しかし、簡単な方法で、それも伝統的で住まいにとって本質的な方法で住環境を確保する方法がある。庭を設けることである。庭といっても庭石を立て、池を掘れと言っているのではない。掃き出しの開口部を設け、外に出られる濡れ縁をつくり、囲いを設けて、ステテコ姿で涼めるようにすれば良いのである。また、別の使い方としては、花を咲かせ、野菜をつくれば、精神衛生上にも健康にも良い。近所の人たちとティーパーティーをするのも良いだろう。内部に閉じている今の仮設住宅のもう一つの問題は、住民の孤立化であるから。

今回の震災に限らず、日本の仮設住宅にはサイトプランがない。ただ、一列に並べただけなので役に立つ外部空間が生まれない。その結果、外部は単なるアクセスの場、そして室内を覗く視点になっている。

造園関係者の手で仮設住宅にサイトプランを

る。これでは窓を開けて風も通せない。エアコンに頼るつくりは、個々の敷地の特徴を考えないですむから量産化には向いているが、コストとエネルギーを消費し、住人を孤立させる。では、サイトプランを考えるとどうしたら良いのか。難しく考えることはないし金もかからない。要は住戸の並べ方を工夫し、プライバシーの保てる外部空間Ⅱ庭を囲えば良いのである。壁が足りないところには塀を設ける。間伐材による板塀などでも良いだろう。

以上のようなことを考えながらも、直接行動に移すことなく傍観していた。そして、これだけ大勢の助っ人が集まったのだから、誰かが提案し実現するのではないかと思っていた。しかし、どうもそうはならなかった。建築学会誌は仮設住宅に関する提案を特集している。そこには実にたくさんの提案があるが、皆建築単体に止まっている。そして、そうした結果を見るにつけ、サイトプランはやはり造園の領域で担うべきではないかと思いついた。造園家が庭ができるようサイトプラン、街区設計を行う。そして仮設住宅を建築家に発注する。あるいは造園家が座長を務めてプロポーザルを実施すれば良い。実際には、まとまった供給量の確保や、できるだけ地元の建設業や林業を活用するよう考える必要がある、大きなシステムを検討することになるから、個人の力では追いつかない。災害が起きる前に、しっかりと全国的な組織が取り組む必要がある。では、そのようなことができるのは誰か、日造協をおいて他にはない。

(公社)日本造園学会東北支部長、
東北公益文科大准教授
温井 亨

郊外にあるゴルフコースで、キューケンホフや国営昭和記念公園、国営越後丘陵公園など氏のデザインした事例やさまざまな庭園デザインのプレゼンテーションをしていただいた。

◇Noordwijk(ノールドワイク)のビーチリゾート

オランダの西は北海に面しており、広い砂浜が広がるNoordwijkにはリゾートホテルや高級別荘シャーレが立ち並んでいる。

夏休みの時期であるためか、砂浜沿いの道路は車両の通行を閉鎖し、道路の真ん中には海から砂を運び入れてフットサルのピッチが作られている。公道を使った大胆な発想だ。

ヨーロッパの経済不安はオランダにも影響し、近年の不動産価格高騰後の急激な値下がりですり物件が多くなっているようで、多くの別荘には売り物件の表示がされている。

◇Amsterdamse Bos(アムステルダム セ・ボス)

アムステルダムの森自然公園は、欧州でも最大規模の公園で1923年にボス計画としてアムステルダム市が計画し、1934年から工事が開始され雇用創出事業も兼ねて延べ5万人の労働力が費やされたそうである。途中、第2次世界大戦がありドイツ軍が駐屯地として占領した。その後工事が再開され1964年に完成となり今の形になった。面積およそ900haという広大な敷地は、半分が森林で1/4が芝生地、20%が水面となっている。散策ルート、自転車ルート、乗馬ルートでネットワークされ、主要な場所には駐車場が点在する。園路総延長は137km、自転車道が51kmにもなる。8レーンの漕艇場では多くの市民がテントに泊まり込んで釣りを楽しんでいる。

もともと自然林の少ないオランダでは、人が自然を作っていくものという考え方もあり、人工の森は80年を経て市民の憩いの場として自然の森になっている。

◇Clingendaar(クリンゲンダール)日本庭園

Clingendaarは、オランダの政治の中心であるデ・ハーグとワッセナーの境界に位置する公園で、16世紀以降、貴族によりオランダ庭園やイギリス庭園などいくつもの種類の庭が作られ、19世紀になってからは貴族フォン・ブリーネン(van Brien)家の所有となった。日本庭園は領地を引き継いだマルガリーテ:Marguerite M. Baronesse van Brien(1871-1939)によって20世紀初めに作庭された。マルガリーテ婦人が日本を旅行した際に日本庭園を気に入って石灯籠、蹲、反り橋、主要な植物などを日本からオランダへ輸送して、京都の無鄰菴を参考に庭園を造営したと言われている。婦人が日本に滞在した記録として、イギリスの貴族たちとともに1910年5月7日に箱根富士屋ホテル宿泊した宿帳をFeijen氏が確認したそうだ。

残念ながら元の庭園デザインは第二次世界大戦中にドイツ軍の占領下で貴重な記録が消失してしまったが、残されていた僅かな写真を頼りに茶室や橋などの修復をしているそうである。

日本庭園は庭園維持のため、通常は春の6週間のみ開園しているが、今回はHague市のMr. Feijenのはからいで閉園中にもかかわらず見学することができた。

日本庭園は、約7000㎡の三角形で流れと竹垣により囲まれ、太鼓橋を渡って入口の門に入り、さらに茅葺き風の庭門をくぐると左には石畳と蹲踞のある待合があり、右に目を転じると亀島のある池や石橋などが配置された苔で覆われた庭のいたるところに様々な様式の灯籠が据えられ、奥に設えられた茶室とともにエキゾチックな日本庭園の雰囲気醸し出している。

多くの施設はオリジナルの状況がわからないため、残された写真などを手がかりに現地スタッフによる修復がされたそうで、芯の通っていない灯籠や景石の据え方、宝珠まで朱塗りにされた橋やペンキ仕上げの濡れ縁など違和感を覚えるものもある。

クリンゲンダールは現在ハーグ市の管理となっており、日本庭園を含む園内の維持管理が予算的にも厳しいため、日本の造園技術による修復を望んではいるものの、適切な人材や日本とのコネクションがなく課題となっているそうで、今後のさらなる交流を望まれた。



クリンゲンダール日本庭園

◇ゴッホの森(庭園美術館)

元は鉾山王の夫人が狩猟の森として購入した土地で面積は5500haもある。第二次大戦後の税制改革を期に国に寄付され、デ・ホーヘ・フェルウェ国立公園として管理されるようになった。

広大な園内には無料レンタサイクルのステーションが何箇所もあり、利用者は目的の場所で乗り捨てることができるようになっている。

担当：小松